

一宮町長  
馬淵 昌也

小学校・中学校の皆さんは夏休みとなりました。先日、教育長から、夏休みの宿題として、小・中学生の皆さんに、保護者の方たちと災害時の避難経路を実際にたどってみてください、という課題が出されたと聞きました。これは、各人が、命を確保するために、どこへ逃げればよいか、自宅から何分かかるか、などを確認して、問題点を明らかにすることが目的だそうです。

私は、これは大変意義のある宿題であると思います。災害時、特に津波の際は、必ず波より高いコンクリート造りの建物か、波が届かない内陸に急いで退避して頂かなくてはなりません。また、川や内水などの浸水被害の時は、雨が激しく降っている場合、お宅の中で二階に上がる、いわゆる「垂直避難」の方がよいこともあります。いずれにせよ、正しい行動により、各々が自分の命を守ることが至上命令です。命さえ確保すれば、それ以外のことは、今の日本では、国や自治体、社会全体のバックアップもありますので、暮らしを再建してゆくことが可能です。

しかし、この命の確保という課題を

達成するためには、各自が、それぞれの立場で、現場に即して考え、そして平時にも練習しておかなければなりません。町では今後個別避難計画を策定して参りますが、役場が、すべての方に對し、お一人お一人の生活様態に即して、こうしてください、と指示することは至難のわざです。各々の方が当事者として、それぞれにお考え頂き、それぞれに試して頂いて、これだ、というプランを決めて頂くことが必要です。そうであつてはじめて、災害発生時に、すべての方に無事に逃げて頂くことができます。

私の知人で、白子の海岸部にお住まいの方は、ご家族で、冬と夏、晴れと雨、昼と夜など色々な状態で、避難ポイントまで何分でいけるか、どう行くのが最速か、など実際に試しておられるそうです。私は、一宮町の皆さん、特に海や川の近くにお住まいの皆さんには、町で作ったハザードマップを用いながら、同様のことを行って頂きたいと思っています。私から皆さんへのお願いです。